

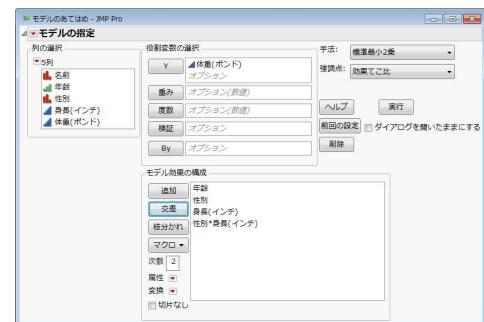
## 重回帰分析

重回帰分析は、連続変数の応答変数と連続変数もしくは質的変数の説明変数間の関係をモデル化するためには使用されます。

### モデルのあてはめでの重回帰分析

1. JMP®のデータテーブルで、**分析>モデルのあてはめ**を選びます。
2. **列の選択**から連続変数(青い三角のアイコン)をクリックし、Yをクリックします。
3. **列の選択**から説明変数を選択し、**追加**をクリックします。
4. **実行**をクリックします。

例: Big Class.jmp (ヘルプ>サンプルデータ)



デフォルトでは、JMP は以下の結果を表示します:

- 効果の要約
- 予測値と実測値のプロット
- あてはめの要約の表
- 分散分析の表
- パラメータ推定値の表等(右図には含まれていません)

JMP はモデル内の各説明変数に対するてこ比プロットの表示、名義尺度や順序尺度の変数の場合は最小 2 乗平均表も表示します。

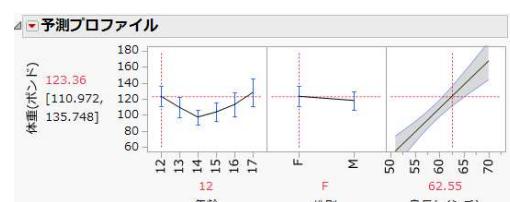
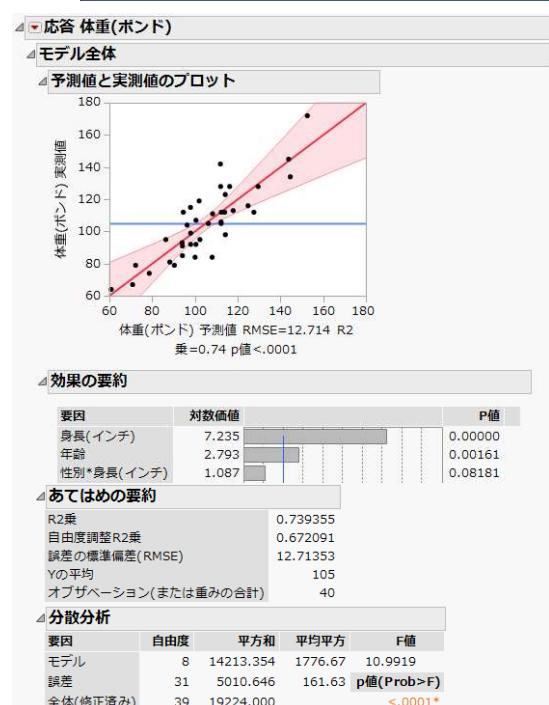
#### ヒント:

- 交互作用項を追加する場合、**モデルのあてはめ**のウインドウで、**列の選択**から複数の変数を選択した状態で**交差**をクリックします。右図の性別\*身長(インチ)は 2 次の交互作用項です。さらに高次の項も追加可能です。
- 予測式、予測値、残差やその他の値をデータテーブルに保存する場合は、**一番上の赤い三角ボタン**をクリックし、**列の保存**から行えます。

JMP はデータテーブルに新しい列を作成します。

- 指示変数(0, 1 でのコードを利用)を確認する場合、**一番上の赤い三角ボタン**から、**推定値 > 指示変数に**対する**推定値**を選択してください。
- 予測値に対する説明変数の効果を確認するには、**一番上の赤い三角ボタン**から**因子プロファイル > プロファイル**と選択してください。

予測プロファイルで、各変数に対応する赤い縦線をクリック、ドラッグすると変数の水準や値を変更できます。応答の平均の予測値とその信頼区間が表示されます。



注意: 回帰分析の詳細に関しては、**基本的な回帰モデル**(ヘルプ>ドキュメンテーション以下)を確認するか、JMP のヘルプで「回帰」と検索してください。